

## ！ワクチンで異常産予防！

### アカバネ病

### チュウザン病

### アイノウィルス感染症

これらの病気は、過去に大流行し異常産による多大な被害をもたらしました。  
今年度、岐阜県で実施した検査ではこれらのウィルスの動きはありませんが、西日本では発生が確認されています。  
異常産の発生を予防するため、流行前に繁殖母牛へワクチンを接種しましょう。

#### <原因>

アカバネ病ウイルス・アイノウィルス・チュウザン病ウイルス

#### <ウィルス流行時期>

7月から11月にヌカカなどによって媒介

#### <症状>

異常産の発生（流産・子牛の先天異常）

#### <対策>

ワクチン接種

○異常産3種混合不活化ワクチン

#### <対象>

繁殖用母牛および搾乳牛（ただし以下のものは除く）

1. 発熱・下痢など臨床上異常を認めるもの
2. 分娩間近または直後のもの
3. 治療中または治療後間もないもの

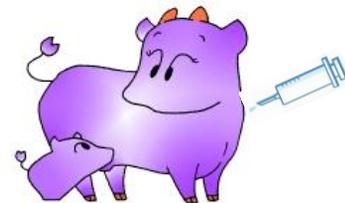
#### <接種時期>

ウィルス流行前（3～6月）



↑ コガタアカイエカ      ↑ ウシヌカカ  
(大きさ比較)

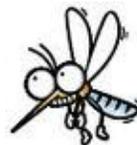
(原図：動物衛生研究所・梁瀬 徹氏)



異常産の予防は媒介昆虫が活動し始める前のワクチン接種です。

飛騨地域では、毎年春に異常産ワクチンを接種しています。

**今後も継続的に接種しましょう！！**



※また、平成28年度分「定期報告書」の提出をお願いします！

異状を発見した場合には、すぐに

**飛騨家畜保健衛生所**

(飛騨総合庁舎 電話 0577-33-1111)まで連絡してください。

※平日時間外(午前8時30分～午後5時15分以外)や休日の電話に対しては、「電話交換業務が終了しています。」に続く、「お急ぎの場合は、そのまま「1番」をダイヤル願います。」案内メッセージに従って対応をお願いします。